

野川護岸整備事業

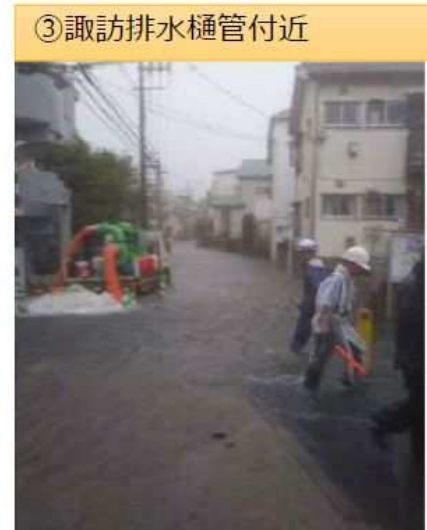
令和5年10月

東京都第二建設事務所
工事第二課

野川護岸整備事業について

1 背景

○令和元年10月に発生した台風19号では、世田谷区玉川にて多摩川からの溢水による浸水被害が発生（溢水により面積約0.7ha、家屋約40戸が浸水）

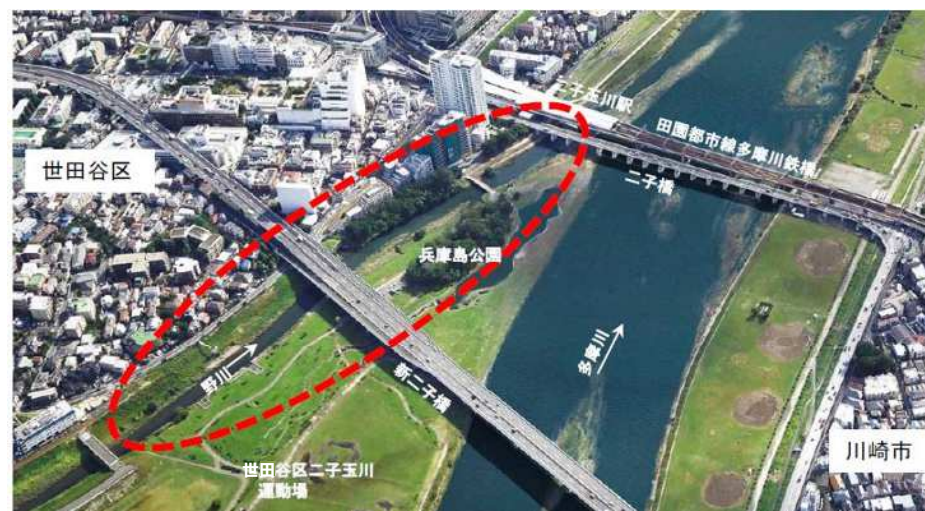
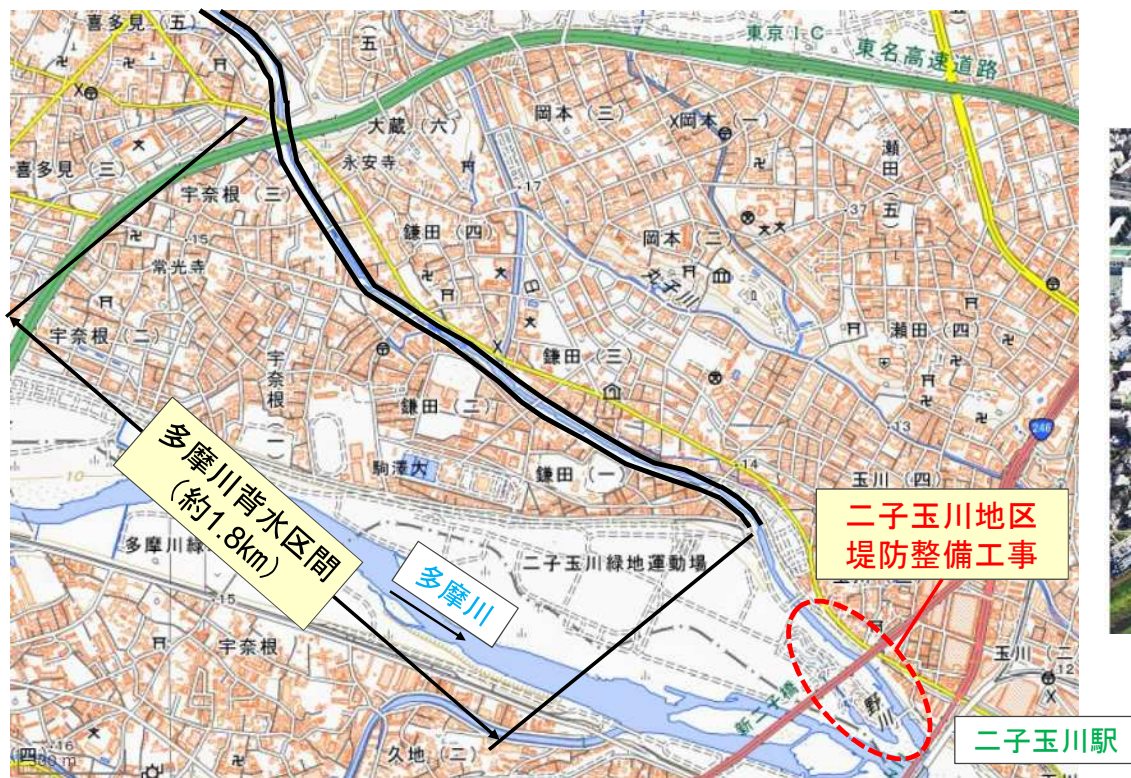


※京浜河川事務所「令和元年東日本台風による出水状況」より抜粋

野川護岸整備事業について

1 背景

- 台風19号の被害を受け、国土交通省京浜河川事務所では「多摩川緊急治水対策プロジェクト」を推進
- 二子玉川地区の堤防整備工事を施工中



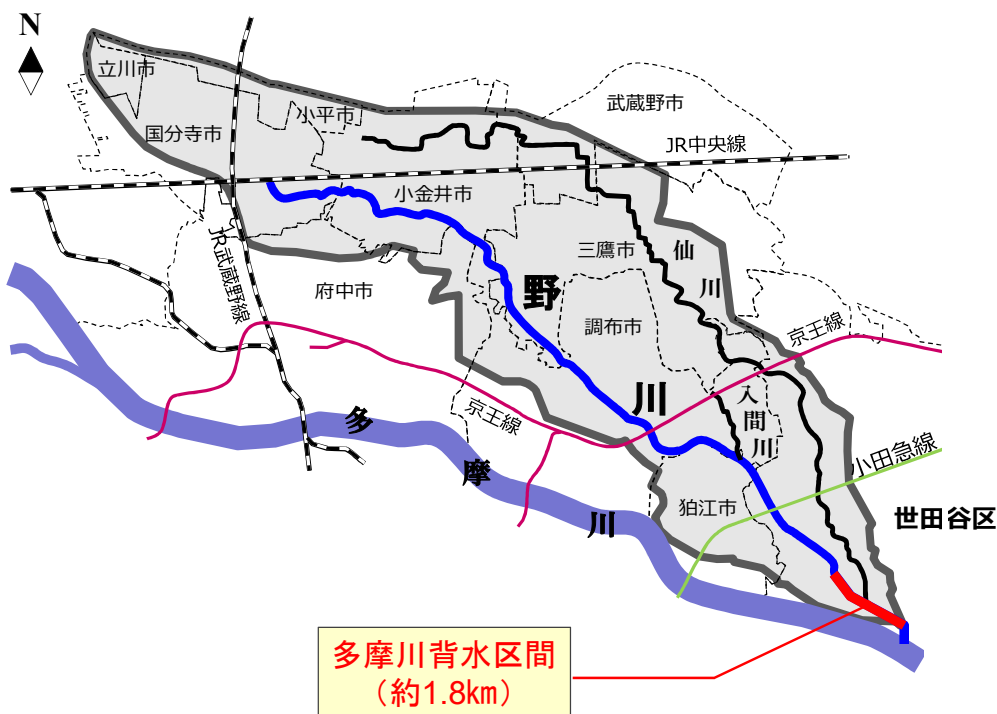
都としても多摩川からの背水の影響による水位上昇に対応するため、**背水区間の整備が必要**

野川護岸整備事業について

2 事業概要

○多摩川の支川である野川の最下流部（多摩川合流点～新井橋）は、多摩川の背水区間となっており、河川整備計画において多摩川計画堤防高（AP+17.205m）までの護岸整備を位置付けている

〈野川流域図〉



〈案内図〉

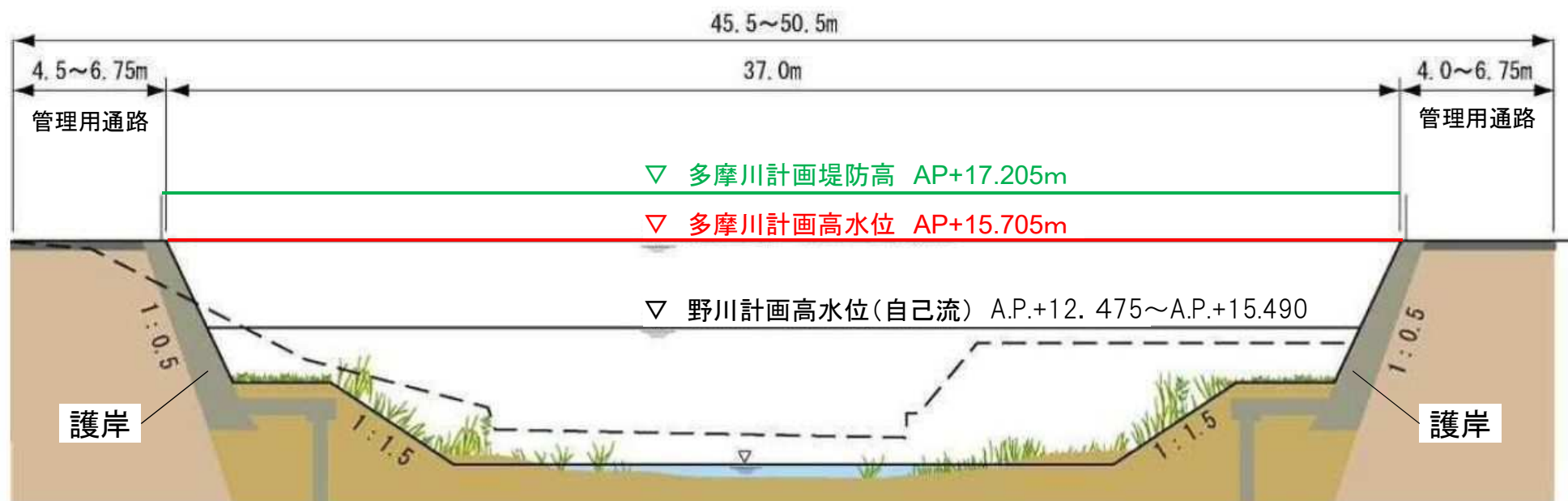


野川護岸整備事業について

2 事業概要

○現況、**多摩川計画高水位** (AP+15.705m) までの護岸整備は完了済み

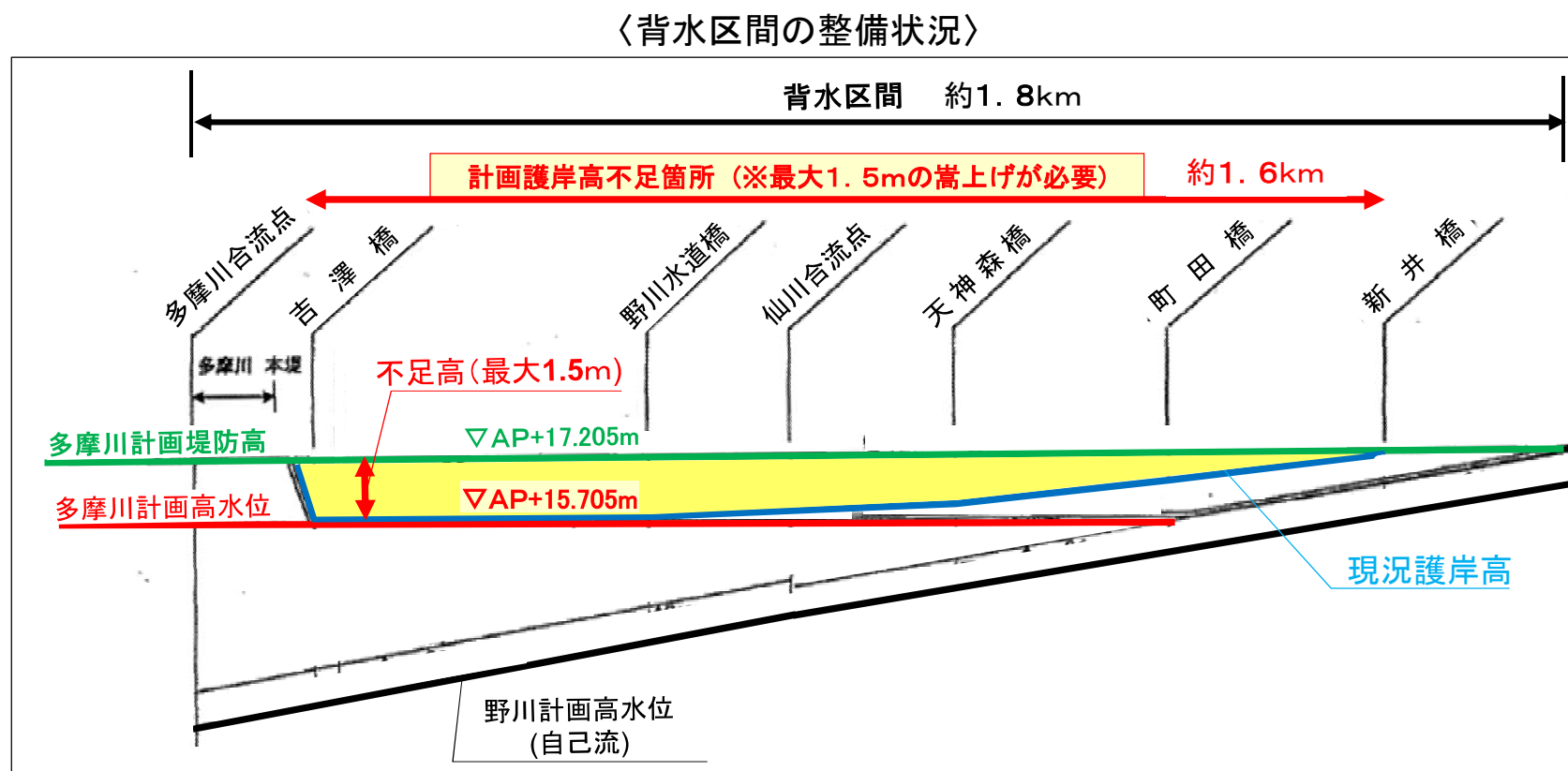
〈野川標準断面図〉



野川護岸整備事業について

2 事業概要

○今後、**多摩川計画堤防高** (AP+17.205m=**多摩川計画高水位**+余裕高1.5m) までの護岸等の嵩上げを実施



野川護岸整備事業について

2 事業概要

○計画護岸高不足箇所の嵩上げ(最大約1.5mの嵩上げが必要)

〈吉澤橋上流左岸〉



〈野川水道橋下流右岸〉



野川護岸整備事業について

3 取組策

アクリル防水壁の採用

事業のスピードアップ

- 既設護岸天端・橋梁高欄部に**アクリル防水壁による嵩上げを実施**することで、護岸の作り直しを行うよりも施工が容易であり、**事業期間の短縮が図れる**

景観に配慮した整備

- 透明なアクリル防水壁を採用**することで、**水面や水辺の動植物を眺められる護岸整備が可能**

〈アクリル防水壁設置イメージ（野川水道橋）〉



〈設置事例（新河岸川;板橋区）〉



野川護岸整備事業について

4 アクリル板の設置方法（護岸部）

平面図



☆ 「嵩上げ高さ」・「護岸構造」に応じて、
3タイプの構造で整備

野川護岸整備事業について

4 護岸部の嵩上げ方法

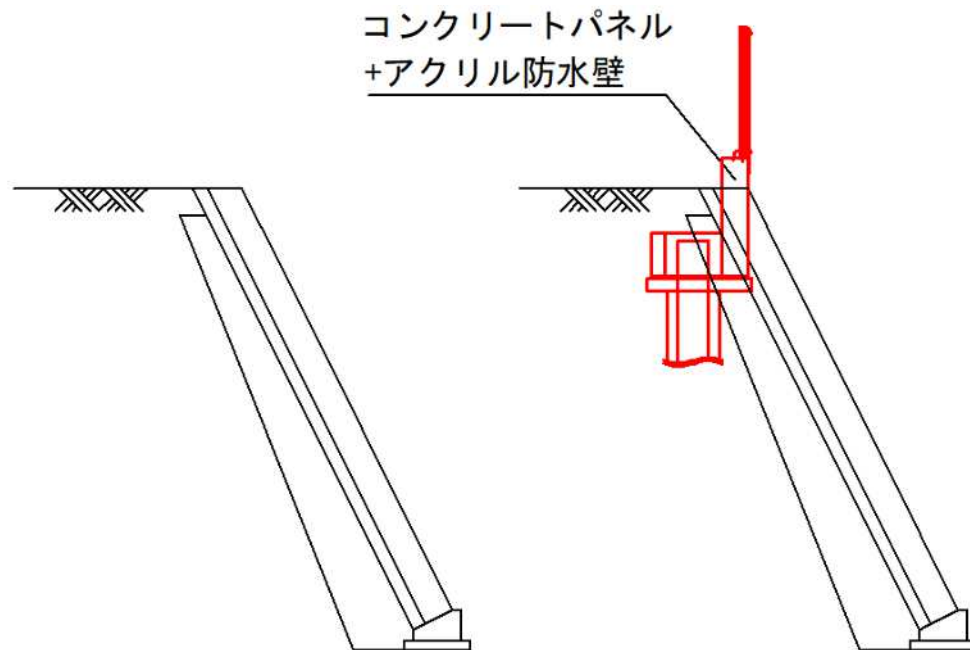
タイプ1

(嵩上げ高さが「0.5m以上」、護岸構造が「石やコンクリートで積まれている護岸」)
杭+コンクリートパネル+アクリル板

現況



対策工



4 護岸部の嵩上げ方法

タイプ2

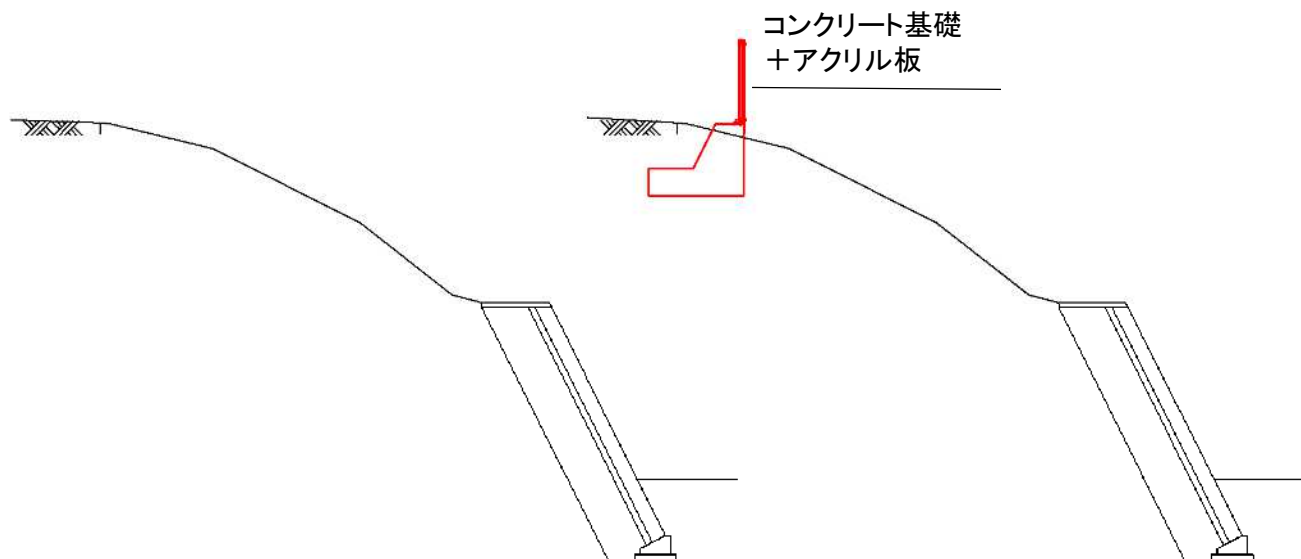
(嵩上げ高さが「0.5m以上」、護岸構造が「土堤」)

コンクリート基礎＋アクリル板

現況



対策工



4 護岸部の嵩上げ方法

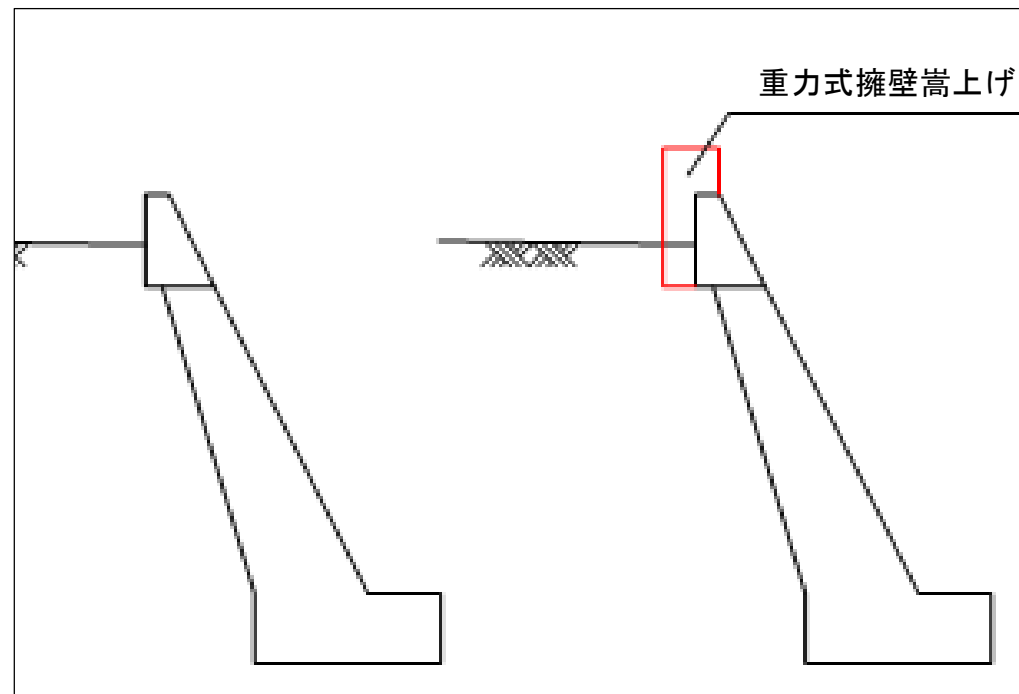
タイプ3 (嵩上げ高が「0.5m以下」)

既設擁壁の嵩上げ

現況



対策工



5 今後の予定

- 国の護岸整備の事業期間が令和7年度までに延伸されたため、都の事業期間も令和5年度～令和7年度に変更となりました。
- 当該事業は区間を分割して工事を発注します。
- 今後も工事ごとに工事説明会を行います。